

特別展 鞆 金 鍛 冶

船釘・錨の

日本一

10/15(金) 9:00~17:00

→ 11/28(日)

■休館日／月曜日

[船釘]

(四爪鉤、江戸時代末～明治時代)
鞆の鍛冶用具と鍛冶の製品
(国の登録有形民俗文化財)

福山市鞆の浦歴史民俗資料館

〒720-0202 広島県福山市鞆町後地7536番地1

TEL/FAX 084-982-1121

■入館料 一般150円 (団体20名以上120円)

高校生までは無料

※11月3日(水)文化の日は無料です。

主催: 福山市鞆の浦歴史民俗資料館
福山市鞆の浦歴史民俗資料館活動推進協議会

福山市

共催: 福山市鞆の浦歴史民俗資料館友の会

協力: 鍛鉄鋼協同組合連合会

※新型コロナウィルス感染症の影響などで、会期、内容が変更となる場合があります。

- 1 潮待ちの港、鞆鍛冶の起り
- 2 鞆の津、鉄の光(刀劍)
- 3 福山城「鐵板張」の謎に迫る
- 4 鞆鍛冶の隆盛
- 5 鞆鍛冶の伝統・文化

宝命酒

▶ 鍛冶屋町(カシヤ町)

相槌を錨に打つや 鍛冶屋町

関連行事 10/29(金)
有料
鞆鍛冶の体験 要申込20名
トレイ作り
ミニフライパン作り
10月14日必着
往復ハガキ
※詳しくは、当館へお問い合わせください。

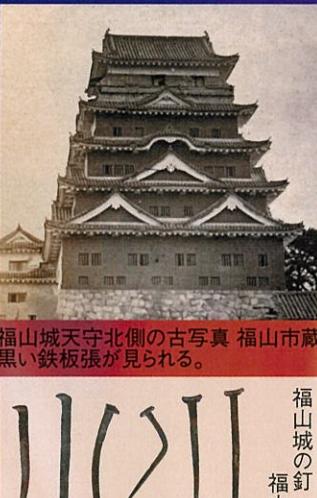
鞆鍛冶の発祥は定かではありませんが、既に中世には刀鍛冶が鞆に住み活躍をしていました。戦国から泰平の世へ移り、刀鍛冶からは船鍛冶などへ移行し、「船釘・錨」の一大生産地として近代まで繁栄をしていました。

昭和43年(1968)、鞆町の東北端に鉄鋼団地が誕生し、伝統的な鍛冶屋は、ほとんど姿を消しましたが、町中には数多くの鍛冶道具類は残されました。これを数年かけて地元住民が、献身的に収集されました。近年、これを整理・リスト化して、この内567点が2021年3月に国の登録有形民俗文化財に登録され、光があたりました。

この登録を契機として、本展では知られざる鞆鍛冶の歴史を掘り起こし、港町とともに栄えた鞆鍛冶の歴史を広く紹介するものです。



福山城古地図(福山市重文)福山城博物館蔵
福山城と鞆は、水路で結ばれていた。



福山城天守北側の古写真 福山市蔵
黒い鉄板張が見られる。



福山城の釘 福山市蔵

3 福山城「鉄板張」の謎に迫る

「大坂の陣」での鉄砲戦に備え、「鉄盾」が鞆で造られたと思われる。後の福山藩主・水野勝成もこの戦いで布陣している。

確たる証拠はないが、福山城天守の鉄板張は、鞆で造られた「鉄盾」などが参考となり、鉄製品の一大生産地・鞆で造られた可能性が高いと考えられる。

1 潮待ちの港、鞆鍛冶の起り

「中国山地」は、全近代では全国の鉄の生産地であり、そこに近い港町・鞆は、水路(川、瀬戸内海)によって大量の鉄材が容易に運搬できた。また、鞆は、鍛冶に必要な燃料の炭なども入手しやすい「潮待ち」の要港(物流拠点)でもあった。奈良時代の木簡では、沼隈郡が鉄製品の特産地となっていることがわかる。

奈良文化財研究所蔵 木簡(写真パネル)

備後國沼隈郡調鉄十廷

鞆鍛冶は、港町の特性を活かして、既に中世には見事な刀剣類を造っている。

2 鞆の津、鉄の光(刀剣)

鞆鍛冶は、港町の特性を活かして、既に中世には見事な刀剣類を造っている。



好条件の鞆鍛冶・イメージ図

現代、鞆鍛冶の伝統を受け継ぎ、鞆鉄鋼団地で数多くの鉄工所・会社が操業している。昭和初期の鞆鍛冶を舞台とした「井伏鱒二」の名隨筆(朗読、公募した「鞆・鉄のアート」)などを紹介する。

5 鞆鍛冶の伝統・文化

朗読・法宣寺堤亭(鞆僧侶)

これは一本みちの街で、両側の家はどの家もみんな鐵鍛冶屋である。鎌を製造してゐる。たぶんこれは鎌製造をしてゐるといふことの話下には、たいていどの家でも大きめな鎌を一つづつ置いてある。二十人ばかりで最も持ち運びできないと思はれるほどの大鎌なのである。

たぶんこれは鎌製造をしてゐるといふことの話下には、たいていどの家でも大きめな鎌を一つづつ置いてある。二十人ばかりで最も持ち運びできないと思はれるほどの大鎌なのである。

雑誌『古東多万』、『鞆ノ津所見』井伏鱒二
ふくやま文学館蔵



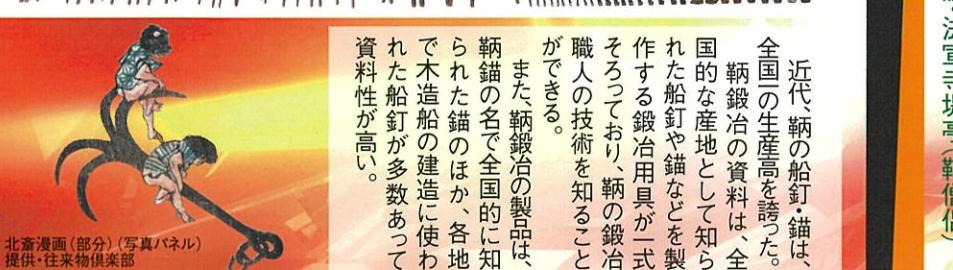
鉄 盾(岡山市重文)
岡山市シティミュージアム蔵



鉄 盾(津山市重文)徳守神社蔵
(津山郷土博物館寄託)



福山城の鉄板 福山市蔵



北斎漫画(部分)(写真パネル)
提供:往来物俱楽部

近代、鞆の船釘・錨は、全国的な生産高を誇った。鞆鍛冶の資料は、全國的な生産地として知られた船釘や錨などを製作する鍛冶用具が一式そろっており、鞆の鍛冶職人の技術を知ることができます。また、鞆鍛冶の製品は、鞆錨の名で全国的に知られた錨のほか、各地で木造船の建造に使われた船釘が多數あって資料性が高い。

4 船鍛冶の隆盛

朗読・法宣寺堤亭(鞆僧侶)

これは一本みちの街で、両側の家はどの家もみんな鐵鍛冶屋である。鎌を製造してゐる。たぶんこれは鎌製造をしてゐるといふことの話下には、たいていどの家でも大きめな鎌を一つづつ置いてある。二十人ばかりで最も持ち運びできないと思はれるほどの大鎌なのである。

たぶんこれは鎌製造をしてゐるといふことの話下には、たいていどの家でも大きめな鎌を一つづつ置いてある。二十人ばかりで最も持ち運びできないと思はれるほどの大鎌なのである。

たぶんこれは鎌製造をしてゐるといふことの話下には、たいていどの家でも大きめな鎌を一つづつ置いてある。二十人ばかりで最も持ち運びできないと思はれるほどの大鎌なのである。

雑誌『古東多万』、『鞆ノ津所見』井伏鱒二
ふくやま文学館蔵

鞆ノ津所見

脇差(室町時代前期)

銘・備後鞆津数下 アサ三